

# 図書館だより

埼玉県立図書館

第 45 号

平成 2 年 10 月 1 日

編集 埼玉県立図書館  
広報委員会

発行 埼玉県立浦和図書館  
館長 須藤 和 敬  
浦和市高砂3-1-22  
電話 048(829)2821

## 《埼玉の札所巡り》

(主な内容)

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| ●秩父札所巡り……………(1)      | ●本のひろば……………(5～6)       |
| ●秩父札所随想……………(2～3)    | ●10月～12月の主な催し物……………(7) |
| ●文化財の保存を目指して……………(4) | ●埼玉の札所・霊場所在地……………(8)   |



坂東三十三か所霊場第九番 都幾山慈光寺 観音堂

### 秩父札所巡り

長井 五郎

もう二十年も前の春のことである。ふとしたことから秩父の札所を巡ろうと考えついた私たちは、親類や時には友人の車に便乗して、一番の四万部寺から三十四番の水潜寺まで巡拝した。急ぐ旅ではなかったので一巡するのに数年はかかった。最初のお参りに一緒だった長兄も、すぐ上の姉ももうあの世の人となってしまった。

わが家のアルバムを繰ってみると、五月の鯉のぼりや咲き誇るツツジの花の前を歩く姿や、秋の終わりの冷たい雨が煙っている中を行くものや、真っ白いコブシや梅が路傍に咲いている風景もある。つまり、私たちの家族の写真の中に、秩父の四季の自然が色濃く投影しており、それが嘘えようもなく懐しいのである。

私たちの秩父札所巡りは、いま自転車での二巡目の途中にある。仏心がよみがえって二巡を完成したら、三巡目は多少は札所の研究もし、歩いてみようかしら、とも話している。

(元県教育長 郷土史研究家)

2012345678913012345



# 秩父札所随想

島田 桂一郎

「奥秩父は黒と白との色彩の交感  
がその地名の上にもあらわれている。  
黒は渾てしない原生林を意味し、深  
い谷を暗示し、日影の村を象徴する。  
黒谷、黒沢、夜倉などというのがある  
と思うと、白川、白久、白井差、  
白泰山、白岩山などという村の名や  
山の名がある。これはいたるところ  
石灰岩が露出しているの、自然に  
こういう名が生れてきたものと思う。」

前田夕暮「老姿」より

現在、レッド・アロー号が横瀬の  
山々を縫い、都会との距離をちぢめ  
て二十年余り、しかし、秩父の風土  
と人間に対するイメージは、そう簡  
単に変わるものではないであろう。  
このことは、長い年月にわたって築  
き上げられた秩父の文化を見つめよ  
うと思えば、いまださほど困難でな  
いことも通ずるものである。

桜吹雪の中、紅葉から初冬にかけ  
て、札所参りの巡礼姿は白の手甲脚  
絆、白衣を着て笠をかぶり手には  
杖を持つが、札所まわりは西国巡礼  
にはじまり室町のころには一般化し  
たという。昔筈には、正面に「秩父  
巡礼」と記し、背面には一人の時は  
「同行二人」、二人の時は「同行三人」

と書く。これはつねに観音に導かれ、  
ともに歩むの意であるという。こう  
して秩父札所巡礼も繁栄していった  
が、また時を追って遊樂化していく  
ことにもなっていた。札所のうち  
には、中二階に三方壁の隠し部屋を  
持ち、時にはばくち場となり、なぐ  
さみの場所にもなったという。

さてこの秩父三十四札所の創立は  
秩父神社旧社殿羽目板墨書、あるいは  
三十二番法性寺の長享二年（一四  
八八）札所番付によれば、やはり西  
国、坂東と同じく三十三所、日本  
百番観音霊場の思想は存在しなかつ  
た。一番定林寺、二番蔵福寺と大宮  
を中心にはじまっていたり、たとえ  
法性寺は「十五番般若殿」とあり、  
近世江戸からの巡礼往來を考慮した  
ものではなかった。この三十三所が  
三十四所になる資料は、三十番雲  
寺の古納札で、次のように記されて  
る。

奥州葛西住赤蘇伊豆守平清定  
西国坂東秩父百ヶ所順札只一人  
為二親菩提 天文五年三月吉日

しかし、同寺の天文六年、十三年の  
納札には秩父三十三度巡礼とあるの  
で、はたしてこの時期に三十四所の

百番観音霊場の成立をみたかどうか  
はさだかではない。古納札中の葛西  
氏の祖は秩父平氏の系脈であり、そ  
の一族についての物語などあるが、  
ここでは省く。ともかく秩父札所を  
三十四所とし、百番観音霊場として  
江戸町人の信仰の花を咲かせた札所  
の人びとの願い、秩父人の意欲は、  
今でもそこ、ここに感じることがで  
きる。

今年、三十四札所総開帳の  
年である。この札所の特長は、西国  
坂東三十三所に比べると、由緒ある  
名刹大伽藍はなく、札所も秩父の峯  
々のふもとに抱かれた草深い盆地  
や山間に点在し、一巡二十里あまり  
である。しかし、それ故に地域の人  
びとの日常信仰の糧ともなり、また  
秩父七湯と呼ばれる鉱泉宿とともに  
近世庶民の信仰と行楽の地になった  
のである。

江戸総開帳

さて、札所一番通経山妙音寺は、  
秩父市橋谷にあり、通称四万部寺と  
もいわれている。観音堂（県指定文  
化財）は唐様、入母屋造りで、三十四  
札所中もっとも洗練された建造物で  
ある。棟札によれば元禄十年建立さ  
れているが、棟梁は秩父きつての名  
匠といわれた藤田徳左衛門吉久であ  
った。なお当寺には安永四年（一  
七七五）の総開帳日記があるが、札  
所が江戸に総開帳したのは、明和

元年（一七六四）が最初である。  
種々のいきさつはあったが、当時三  
十四札所が蓮台を運んで、浅草大護  
院より大塚護国寺まで街中を道中す  
る豪華絢爛たる様子は  
「但、道中御詠歌念仏、而貴賤老  
若男女誠に群集し大護院より護国寺  
迄尺寸の地もなくつづき前代開帳の  
盛儀併騒々敷内喧嘩等もなく怪我人  
害人も無之誠、親世音の御成光有難  
候事為後代記置ものなり。」  
と日記に記されている。開帳中は将  
軍家治をはじめ大奥女中、諸大名、  
旗本、江戸町人の参詣は跡を絶たな  
いありさまであった。この予想もし  
なかつた盛儀に、郷土の人びとは今  
更あらためて將軍家、町人の力に驚  
きの目をみはると同時に、誇らかな  
おもいをいだいたであろう。当時の  
華やかさは、今なお残る「秩父観音  
霊驗記」や、その他の資料によって  
も伺うことができる。

竹む石仏

札所四番高谷山金昌寺の千三百体  
あまりの石仏群（県指定文化財）は、  
遠く四国、紀伊の人たちの寄進した  
ものもあるが、多くは関東、おけて  
も江戸の人たちの寄進したもの、  
その七割にも達するほどである。  
石仏寄進の目的は、その殆どが死者  
供養のものである。中でも子育て観音  
は、その肉感的な姿態、赤子に乳を  
くめる姿が人びとの心をひき、乳の

でない女の人が乳房に触れば願いが  
叶うといわれ、供米を持ち帰って食  
べ祈るなどと伝えている。また、こ  
の観音の台座には蛙が彫つてあるこ  
とから、カエル、ミカエルとてこれ  
をマリア観音とも言伝えている。  
大名や奥女中などの寄進した供養  
仏、祈禱仏なども四、五十体あるが  
清水武甲著秩父幻想行には「……村  
人の伝承では、奥女中たちがやむな  
く、子おろしをし、生れ出なかつ  
た胎児の供養の  
ため、金を送つ  
て童子、童女の  
仏たちを作らせ  
たことがしばし  
はだったという。」  
と記している。

いづれにして  
もこれらの石仏  
群は、その背景  
にさまざまな庶  
民の哀感の情を秘めて佇んでいる。

景清半破り

下影森には二十六番万松山円融寺、  
岩井堂がある。堂内には悪七兵衛と  
いわれ源頼朝をねらい、阿古屋との  
恋愛など伝説の多い平景清の「景清  
半破り」の図額が奉納されている。  
（県指定文化財）鳥山石燕の筆にな  
るもので、明和元年、江戸総開帳  
の折、奉納されたものである。堂内  
には、石燕の門人で、当時十三才で



札所4番 金昌寺「慈母観音像」

あったという石中女筆の紫式部「石  
山寺秋月」の額も奉納されている。  
小鹿野町には三十一番鷲巣山観音  
院がある。山門までは自動車も入る  
が、そこからは二十分ほどの山道で  
ある。頂上につくと断崖から滝が落  
ちているが、左手の岩壁には磨崖仏  
といわれる爪彫りの仏像が刻まれて  
いる。  
三十二番般若山法性寺も同町にあ

る。楼門作りの立派な門は札所中屈  
指のものである。また、前述の長享  
二年の「札所番付」は、札所の歴史  
を知る上で貴重な資料である。  
法性寺は山頂の岩が船のように張り  
出しているところから「岩船山」の  
山号もつけられ、寺にはそれにまつ  
わる岩船観音像（お船観音ともいわ  
れる）も安置されている。

子がいし

三十三番延命山菊水寺は吉田町に

ある。同寺には江戸末期秩父聖人と  
うたわれた井上如常の「子孫繁昌手  
引草」とて聖胎をいましめるたみ  
一冊にもあまる「子がいし」の図額  
が奉納されている。子がいしとは子  
供をもとにかえす、問引き、聖胎の  
ことである。  
図額には「生児を庄殺する母と、子  
がいしをする人のこのころのすがた」  
とて母の顔を二様に書き、次のよう  
な文が記されている。

「此のをんな、かはやさしげなれど  
わが子をさえころすからは、まし  
てたにん子をころすことは、なに  
ともおもうまい、さすればおにの  
ようなところにて、かほつきに  
あわぬどうよくなおんななり、こ  
のようなおんなのおとはさぞか  
しおそろしき人ならん。」  
村人の伝承によれば、いくつもの  
札所の近所には産婆がいて、聖胎を  
思い立った女の人が巡礼に出、秩父の  
地でこれを行つたのではないかと  
いう。

民間の信仰には「血ぶく」「死にぶ  
く」といって女やお産、また死を不  
浄とする俗信がある。聖胎もまた業  
深き女の人が観音や弥陀信仰によつて  
救済を願つたものであろう。また三  
才になるまでは人間ではないとして  
宗門人別帳に記載しない例もあるが、  
それだけではとうてい説明しえない  
近世庶民の悲しみがあつたであろう。

水くぐり

三十四番日沢山水潜寺は皆野町に  
あり、百番観音霊場の結願寺である。  
岩屋の「みずくぐり」をすませた巡  
礼者の心は、ひとしお観世音の慈悲  
に想をはせるのであろうか。

寺の北縁に聳える城峯山は、その  
昔平将門が叔父國香を滅し、東国に  
威力をふるつたが、天慶三年藤原秀  
郷に攻められた時たてこもつた跡だ  
と伝えている。その山麓地方には、  
今なお桔梗姫のあわれな物語を残し  
ている。

著者プロフィール



昭和二年比企郡小川  
町に生まれる。十九年  
余、中学の教職を経て  
昭和四十二年十月埼玉会  
館郷土資料室、県立歴  
史資料館、県史編纂室、県立博物館長等  
を歴任。現在川越市立博物館嘱託、小川  
町文化財保護審議会、県文化財保護審議  
会委員。

著書 「埼玉の絵馬」  
論文 「絵馬小考」その源流にあるも  
のについて」「埼玉の年中行事」



## 文化財の保存を目指して

坂東札所九番  
都幾山慈光寺

私は、いったい何度、この寺に足を運んだことだろう。小学校のキャンプで、高校生のとき参加した奥武蔵研究会の見学会で、都幾山村考古学研究会の仲間と行った板碑の研究で、村役場に勤めてからは山中に残る僧坊跡の確認調査で、突然の釈迦堂などの火災で、慈光寺展を開くための準備で、鐘樓の再建で……

私は現在、都幾山村教育委員会文化財や村史編さんの仕事を担当させていただいているが、村の杜寺の中でも特に思い出深いこの寺、「慈光寺」のことについて少しご紹介したい。

ご存じの方も多いと思うが、慈光寺は関東天台宗の古刹で、都幾山村の中程に位置する都幾山の中腹にある。寺伝「都幾山慈光寺実録」によると、今から千三百年余前の天武二年（六七三）の創建と伝えられ、現存する寺院としては、埼玉県内で最も古い歴史を誇っている。

また、国宝の一品法華経等数々の貴重な文化財を有するほか、本堂西側、山中にある観音堂は、坂東札所

九番の霊場にもなっている。  
このようなことから、歴史や文化財の研究者はもちろん、札所巡りの参拝者、自然を求めてのハイカーなど、年間三万人を超える人々が慈光寺を訪れ、村民からは村を代表する寺院として親しまれている。



(慈光寺蔵 千手観音立像)

ところで、昭和六十一年の秋、この慈光寺の長い歴史の中でもその運命を左右する大きな出来事があった。

それは、不審火によって、慈光寺の代表的な建造物であった釈迦堂、蔵王堂が堂内の仏像とともに焼失し、鐘樓が半壊してしまったことである。このことは、被害者である慈光寺はもとろん、関係者や村民に大きな落胆と失望を与えた。特に慈光寺は、かつて七十五もの僧坊があったと伝えられる山中に残る数少ない堂宇を失い、寺の存亡にも関わる大きな痛手であった。私も火災の翌日、跡形

もない真つ黒焦げの現場に立つたときは、例えようのない無念さでいっぱいになったことを、今さらのように思い出す。

さて、この火災以後、村の中の慈光寺を取り巻く環境が大きく変わりはじめたように思う。  
翌昭和六十一年九月には、村、檀家、観音信仰の信徒会、地元西平地区の議員、住民等によって「慈光寺文化財保存会」が結成され、慈光寺の再建に向けて一歩を踏み出した。同六十二年九月には、県内外に慈光寺の存在をアピールするとともに、再建のための「慈光寺展」を開くことができた。

また、今年春には、村、寺、地元三者の協力により、約一五〇〇万円をかけて念願の鐘樓が再建され、文化財収蔵庫に保存されていた寛元三年（一二四五）銘の銅鐘も元の姿に戻すことができた。

村の中では、こうした運動を通じて、改めて文化財についての論議が熱心に交わされるようになった。そして、このような機会に慈光寺を応援して下さる村外の研究者や有識者の存在を数多く知り、心を強くしたものである。火災により失ったものは大きい、この出来事が一つのき

(再建された鐘樓)  
池上富根氏撮影

っかけとなって、村の中に歴史や文化財への関心が高まったことは、関係する者の一人として何よりもうれしく感じている。

釈迦堂等は失われたが、まだまだ慈光寺は関東の古刹たる面影を十分に偲ばせてくれる。麓のバス停から歩くと、四十分程で本堂に登れる。文化七年（一八一〇）頃に建てられたといわれる観音堂からは、奥武蔵のやさしい山並みが一望できる。  
終わりに、この拙文を読まれる皆さんに、心地良い秋の風に吹かれながら、文化財ガイドブックを持っての慈光寺の散策をぜひお勧めしたい。  
岡野吉男  
(都幾山村教育委員会  
社会教育係長)



## 埼玉の札所

今月号の特集にちなんで、埼玉の札所に関する資料の一部を、県立図書館所蔵の図書と16ミリフィルムの中から紹介します。詳しくは県立各図書館にお問い合わせ下さい。

## 【図書】

●午歳総開帳 平成2年3月1日より11月18日まで 秩父観光協会 90  
〔浦・熊・川・久〕

十二年に一度行われる、秩父三十四ヶ所観音霊場の総開帳にあたって作られたパンフレット。秩父の観光案内も兼ねている。

●絵本秩父の札所 池原昭治絵・文 木馬書館 79〔浦・熊・川・久〕  
秩父三十四霊場を巡礼してまとめた画文集

●忍三十四番巡礼札所 小久保隆時、小倉又夫共著 熊谷市郷土文化会 68〔浦・熊〕  
秩父札所を模し、旧忍領にある寺院の中から選んで設定された札所の

## 紹介。

●関東古寺巡礼 難波淳郎著 インタナル株式会社出版部 76

「秩父巡礼」「親鸞の寺々」「密教の寺」の三部からなる手引き書。

●心から心への旅路 秩父三十四観音めぐり 山田英二著 大蔵出版 76〔浦・熊・川・久〕  
巡礼路を一つ一つ訪ね、ペンとカメラで綴った巡礼記。

●古寺巡礼辞典 中尾堯編 東京堂出版 73〔熊・川・久〕  
全国の百余のコースを紹介。巡礼コース辞典であると同時に御詠歌、縁起などを載せた札所辞典でもある。

●古寺名刹の百科事典 歴史百科編集部編 新人物往来社 88〔浦・熊・川・久〕  
第一篇で霊場めぐりの知識、全国主要霊場めぐり一覽を紹介。

●埼玉八十八霊場巡り 渡辺良夫著 さきたま出版会 88〔浦・熊・川・久〕  
寛政年間に創設され、昭和五十九年に復活された霊場についての手引き書。廃寺も含まれている。

●狭山三十三所観世音順礼記 亮盛、万泉共撰 栗原胡秋編 自刊 64〔浦〕  
文化二（一八〇五）年刊本による編者の復刻。所在地は現在の東京都所沢市、入間市。  
●空からの巡礼秩父三十四カ所 朝日新聞浦和支局編 さきたま出版会 84〔浦・熊・川・久〕  
札所開創七五〇年を記念して、昭和五十九年新聞に掲載されたもの。空撮写真が光る。  
●秩父観音霊験記 服部応賀原編 秩父観音霊験記刊行会 30〔浦〕  
寺ごとに上段に全景、下段に霊験を物語る文と絵を描いたもの。絵は安藤広重、三代目歌川豊国。  
●秩父観音霊場研究序説 矢島浩著 豊昭学園 66〔浦・熊・川〕  
既存の文献と足をたよりにまとめた異色の研究書。  
●秩父幻想行 観音霊場、そのころと風土 清水武甲写真 木耳社 68〔浦・熊・川・久〕  
秩父札所をめぐる史的、民俗的事象を写真を通して幻想的に提示しようとした写真文集。  
●秩父古寺を歩く 室生朝子著 新

## 人物往来社 87〔浦・熊・川・久〕

秩父三十四ヶ所札所めぐりを題材にした文学紀行。

●秩父三十四カ所 平輪良雄著 札所研究会（古寺巡礼シリーズ）70〔浦・熊・川・久〕  
巡拝する人の役に立つようにと執筆された秩父札所案内書。

●秩父34カ所 竹村節子著 保育社（カラーブックス557） 82〔浦・熊・川・久〕  
山歩きを兼ね、観音霊場を訪ねて歩く。巡礼ハイキングに適した書。

●秩父三十四観音 完全案内 久保利雄著 国書刊行会 78〔浦・熊・川・久〕  
日帰りハイキング秩父札所めぐりとして、三十四ヶ所を歩行時間三、四時間の九コースに分け、紹介。

●秩父三十四札所考 河野善太郎著 埼玉新聞社 84〔浦・熊・川・久〕  
秩父札所・巡礼に関する研究書。

●秩父路の信仰と霊場 秩父札所記 栗原伸道著 国書刊行会 76〔浦・熊・川・久〕  
秩父札所成立の理由、年代などの概説と一番から三十四番までの紹介とからなる。

●秩父巡礼ひとり旅 福田常雄著





## 10・12月の主な催し物

## ●県立浦和図書館

資料展「見沼」 1階ホール  
11月14日(水)～18日(日) 9時～17時  
(見沼に関する資料等約200点の展示紹介・「見沼通船堀」のフィルムやビデオの上映)

## 映画会

10月26日(金) 10時・14時  
「さいたまの伝統工芸」  
11月14日(水) 10時・14時  
「秩父のほぐし捺染」ほか  
「県民の日」

「さきわか物語―古代東国」  
11月22日(木) 10時・14時  
「新着フィルム」

「寝たきりゼロをめざして」  
「新ちゃんがないた」  
12月22日(土) 14時  
「白雪姫」

12月25日(火) 10時・14時  
「アンパンマンといきまん」ほか

12月26日(水) 10時・14時  
「ミッキーマウスと魔法の帽子」ほか

現代書林 81 (浦・熊・川・久)  
秩父札所を歩いて感じたことをエッセイとスケッチでまとめる。

●秩父浄土 秩父観音霊場写真集  
清水武甲写真 春秋社 76

写真を通して、札所と秩父の民俗を見つめる。  
●秩父の札所 紀行・ガイド・納経帖 坂本時次著 秩父の札所刊行所 72 (浦・熊・川・久)

札所一番から三十四番までの各寺の由来、見どころ、交通を紹介。各寺ごとに御朱印のページがあり、札所めぐりの記録ともなる。  
●秩父坂東観音霊場 清水武甲写真集 清水武甲写真 新人物往来社 84 (浦・熊・川・久)

「秩父霊場」 「秩父霊場の観音像」 「坂東霊場」 「坂東霊場文化財指定観音像」が四季の風景とともに写し出されている。  
●秩父坂東最上巡礼の旅 伊藤九左エ門 自刊 80 (川)

著者の三年余にわたる四国・西国・秩父・坂東、最上二百二十ヶ寺巡礼のうち、秩父、坂東、最上百観音についてまとめた巡礼記。  
●秩父札所の今昔 秩父札所の今昔刊行会 68 (浦・熊・川)

多くの史料を駆使し、近世から近代にいたる変遷の考察が中心の研究書。

●秩父札所ハイキング 浦野要編 緑書院(みどりオールガイド4) 76 (浦・川)

秩父札所を誰にでも行けるハイキングコースとしてまとめられたもの。



●秩父霊場資料展展示目録 札所めぐり 埼玉県立熊谷図書館 87 (浦・熊・川・久)

昭和六十二年十一月に開かれた資料展展示目録。秩父札所に関する資料が網羅的に収録されている。

●寺のある風景 坂東三十三ヶ所小川和祐著 さきたま出版会(さきたま双書) 85 (浦・熊・川・久)

「寺々の歴史や風物、古い伝承をルポルタージュ風に語った」もの。坂東札所の九番から十二番までの四ヶ寺が県内にある。  
●長瀬七草寺霊場めぐり 長瀬不動

## ●埼玉県立熊谷図書館

## 文芸講演会

12月8日(土) 13時30分  
横瀬町民館

講師 大岡信氏「折々のうた」  
入場無料 先着500名

郷土を知る文化資料展  
11月14日(水)～11月18日(日)

テーマ 埼玉の都市計画  
内容 県および市町村の都市計画に関する資料等の展示、ビデオの上映

## 映画会

12月1日(土) 10時・14時  
「高峰三枝子追悼」  
12月14日(金) 14時  
「戸田家の兄妹」  
「日本の漁」

「海なし埼玉の水産」ほか  
12月21日(金) 14時  
「日本の伝統芸能」

「文楽の魅力」ほか  
「クリスマス子ども映画会」  
12月25日(火) 10時・14時  
「月夜に浮かぶ幻の街(ニルスのふしぎな旅)」ほか

冬休みビデオディスク・コンサート  
12月26日(水) 10時・14時  
「ウィング WINK FIRST LIVE―Shining Star―」ほか

※視聴覚室の改修工事のため、

寺 奉賛会編 国書刊行会 84 (浦・熊・川・久)

秋の七草の植えられている七ヶ寺の紹介と長瀬町の観光めぐりの参考となる書。

●羽生鎮二十ヶ所札所めぐり 浄土への祈り 羽生市教育委員会 88 (浦・熊・川・久)

昭和の初めまで北埼玉地方で行われていた「大師めぐり」の調査報告書。

●坂東観音いまむかし 栗原伸道著 国書刊行会 87 (浦・熊・川・久)

「いま歩く坂東観音霊場」 「思い出の坂東観音巡礼」の二篇からなる。前者は各霊場の紹介、後者は著者の巡礼記。

●坂東三十三ヶ所 平幡良雄著 札所研究会 66(満願寺事業部 79) (浦・熊・川・久)

図版や地図が豊富で、巡拝日程や宿泊案内なども詳しい。坂東三十三ヶ所札所めぐりには便利なガイド。

●比企西国御詠歌 新井次良 自刊 72 (浦・川)

東松山・古貝・川島・嵐山・滑川にまたがる比企西国三十三ヶ所札所で歌われた御詠歌の一覧。  
●札所めぐりの旅 西国・坂東・秩

10月・11月の視聴覚関係の行事はありません。

## ●県立川越図書館

本を読む県民の集い

11月7日(水) 13時・16時・東松山市中央公民館 定員50人(申込先着順)  
講演「わたしと小説」渡辺淳一氏(作家)／事例発表ほか

※申込 10月21日(日)(当日消印有効)  
までに、往復ハガキに住所・氏名(往信裏・返信表に電話番号(往信裏)を明記し、県立川越図書館(〒350川越市新宿町1-17・1「本を読む県民のつどい」係)へ。

郷土を知る資料展  
11月14日(水)～18日(日) 9時～17時  
「図書館資料でみる埼玉の芸術」  
移動図書館利用者のつどい  
講演「神よりも尊き者たち」から「畑山博氏(作家)／事例発表ほか」

11月30日(金) 13時・16時・小川町役場3階大会議室 当日先着順150人  
映画会  
10月12日(金) 10時・14時 先着150人  
文芸映画会「野菊の墓」

10月26日(金) 10時・14時 先着150人  
山の映画会「遭難! 谷川岳の記録」  
11月2日(金) 10時・14時 先着150人  
映画の集い「熟年シリーズ」男の値打ち「素敵な女性」ほか

父百観音 竹村節子著 日本交通公社事業部 82 (熊・川・久)

西国・坂東・秩父百ヶ所のコースと日程、御朱印を紹介。その他の観音札所の一覽も付す。

●武蔵野観音 三十三の霊場 平幡良雄編 札所研究会(古寺巡礼シリーズ5) 73(第二版 満願寺事業部 79) (浦・熊・川・久)

東京から埼玉にまたがる三十三の札所を紹介。

●目で見る秩父札所 三十四ヶ寺歩いてみたら 磯部謹作著 自刊 85 (浦・熊・川・久)

著者の写真による秩父札所巡礼記録。  
●「16ミリフィルム」  
巡礼 秩父三十四ヶ所観音霊場 80 カラー30分 (浦・熊)

七百年もの間、庶民の信仰に支えられている秩父観音霊場を秩父節といわれる御詠歌とともに紹介。

●秩父霊場めぐり 埼玉県教育委員会 80 カラー20分 (浦)

秩父札所に時の流れを追う。  
※浦……県立浦和図書館所蔵  
熊……県立熊谷図書館所蔵  
川……県立川越図書館所蔵  
久……県立久喜図書館所蔵

11月14日(水) 10時・14時 先着150人  
県民の日映画会「アルプスの少女ハイジ」

11月16日(金) 10時・14時 先着150人  
映画の集い「旅の歌人たち」幾田河の歌 牧水「松尾芭蕉」

●県立久喜図書館  
郷土資料展  
「さいたまの「みどり」を考える」集

会室  
11月14日(水)～11月18日(日) 9時～17時  
映画会 視聴覚室

10月4日(木) 14時  
「人形のまち岩槻」 「くまがやの素顔・産業・自然・まつり・史跡めぐり」

10月13日(土) 10時・14時  
「家族ゲーム」  
10月26日(金) 14時  
「蝶がどぶ・森」

11月1日(木) 14時  
「歩いてみませんか―関東ふれあいの道―」 「でかけてみませんか―さいたまの公園―」ほか

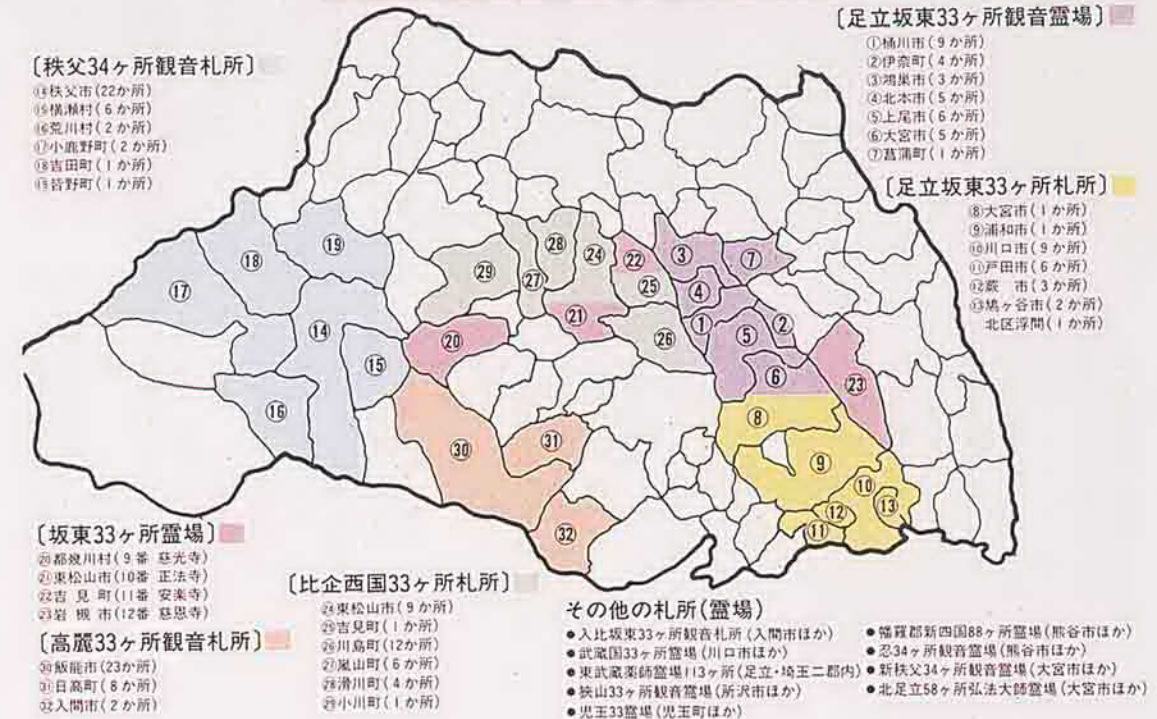
11月14日(水) 10時・13時30分・15時  
「パンダの大冒険」 「パンダのふるさと」

11月29日(木) 14時  
「恐竜の時代」 「パレオパラドキシア」ほか



# 「埼玉の札所」

## 県内の主な札所・霊場の所在地



## 秩父34ヶ所観音霊場 午歳総開帳

平成2年は、秩父34ヶ所観音霊場で12年に一度行なわれる午歳総開帳の年にあたります。

このため、平成2年3月1日から11月18日(日)までの263日間は、平素は参拝を許されない御本尊様のお厨子



の扉が開かれ、観音様の慈顔を拝することが出来ます。

開帳には、御本尊をその祀られている寺院で開帳する居開帳と、他の寺院等を開帳の場所にして御本尊をその場所に移して開帳する出開帳とがあります。江戸元禄時代より数度にわたり江戸の寺院内で出開帳が行われてきました。

この秩父霊場の御開帳が午歳に開かれるのは、馬が観音様の眷属であるところから午歳に行われたと言わ

れ、また秩父霊場のおこりが文暦元年甲午歳と伝えられるところから午歳に総開帳をしたとも言われています。

## 編集後記

紅葉の便りがそこそこ……。野歩きには絶好の季節です。気軽に、身近かに自然や歴史に親しむ場と言え、県内各所の札所巡りをお勧めしたい。本号のテーマは、埼玉の札所巡り。巻頭は長井五郎さん。秩父札所巡りが2巡目に入り、その風景と楽しみが行間にもあふれる玉稿をお寄せいただきました。

主題は、秩父札所随想の島田さん。長い年月にわたって、庶民の信仰と行楽の場となってきた秩父の札所について、その風土と歴史を踏まえた事跡を述べられ、秩父巡りのよい道標になります。

県内屈指の名刹「坂東札所9番都幾山慈光寺」(表紙写真)。不審火による釈迦堂等の焼失から鐘樓の再建への御苦労を、地元岡野さんが述べています。県内各地の霊場・札所は、歴史の歩みとともに老朽化して行きますが、いつまでも支えて行きたい心の安らぎの場、郷土の誇る風景です。